

第19期 定時株主総会

議長挨拶

取締役社長

村尾 修

本日の議事の進行要領

報告事項等のご報告・ご説明



決議事項の上程・ご説明



報告事項・決議事項につき
一括して質疑応答



採 決

議決権の数

総議決権

803,362個
(29,057名)

出席議決権

(事前行使分含む)

641,791個
(11,515名)

監査報告

1. 会計監査人の監査結果

連結計算書類、計算書類等は財産および損益の状況を適正に表示している
(無限定適正意見)

監査報告

2. 監査役会の監査結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告およびその附属明細書は、法令および定款に従い、会社の状況を正しく示している
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない

(2) 計算書類およびその附属明細書の監査結果

会計監査人の監査の方法および結果は相当である

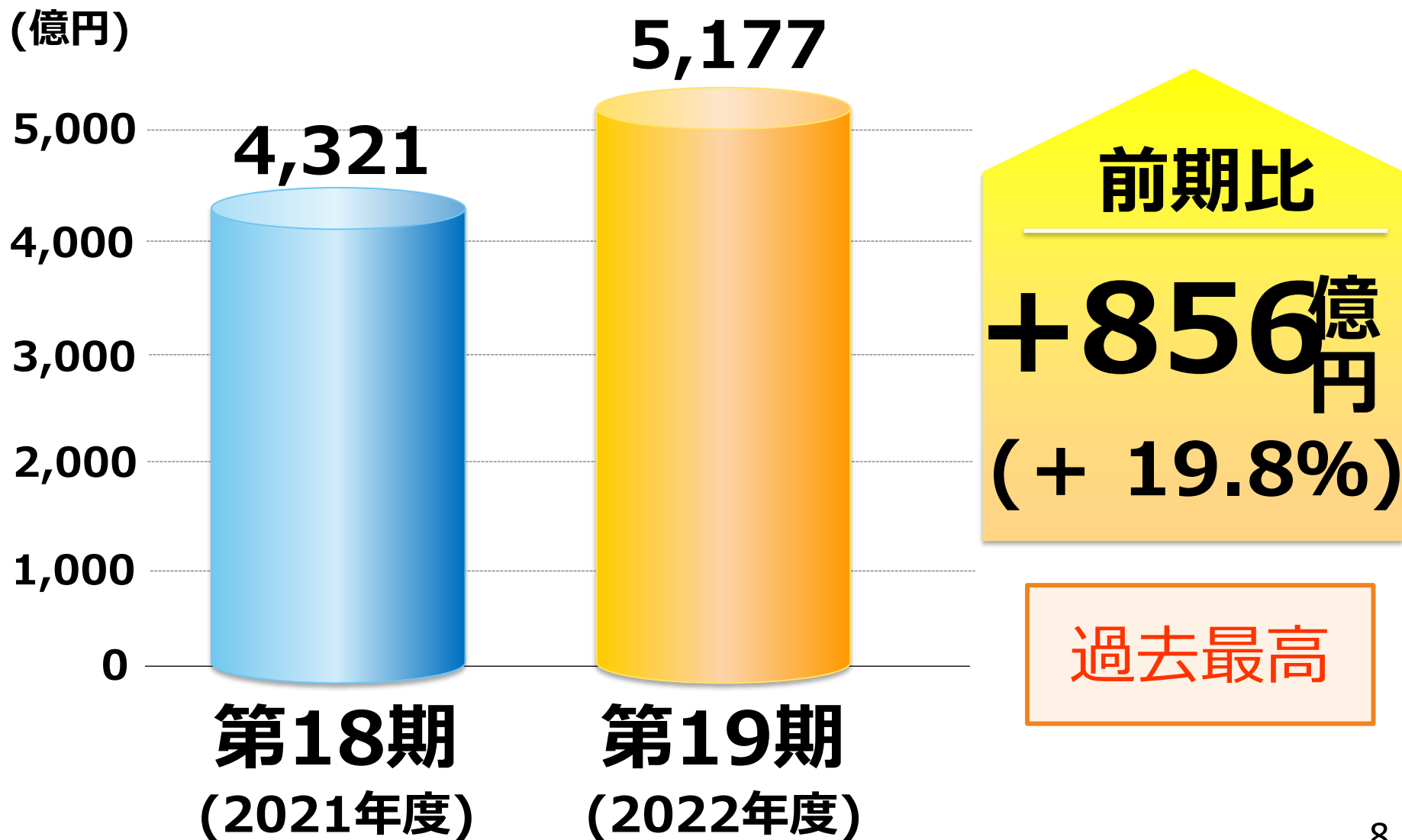
(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人の監査の方法および結果は相当である

第19期（2022年度）報告

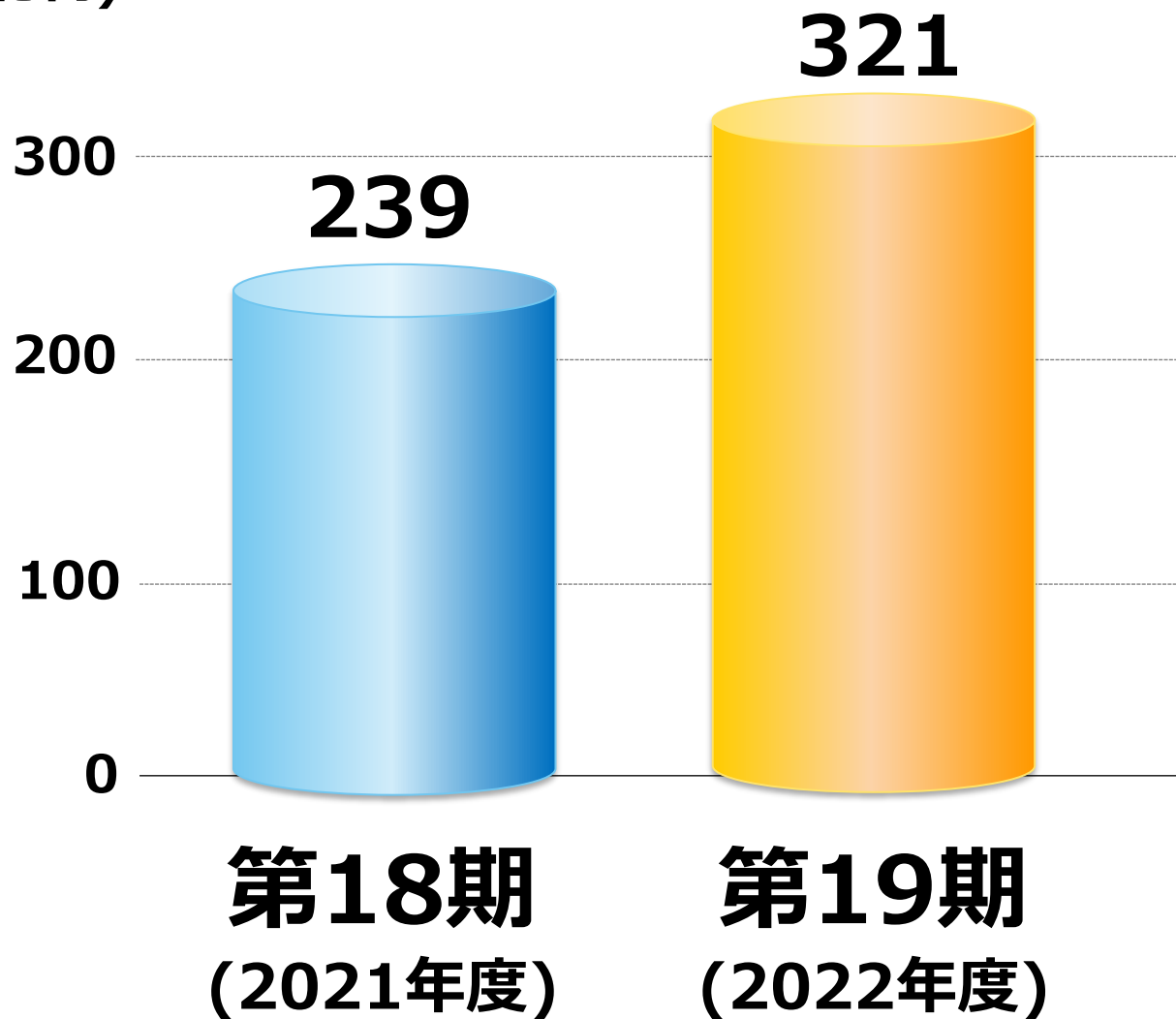
業績の概要

決算の概要(P/L) 売上高(連結)



決算の概要(P/L) 営業利益(連結)

(億円)



前期比
+82 億円
(+ 34.5%)

過去最高

決算の概要(P/L) 経常利益(連結)

(億円)

300

247

242

200

100

0

第18期
(2021年度)

第19期
(2022年度)

前期比

- 5 億円
(- 2%)

決算の概要(P/L)

親会社株主に帰属する
当期純利益(連結)

(億円)

200

139

100

85

0

第18期
(2021年度)

第19期
(2022年度)

前期比

+54 億円
(+ 64.5%)

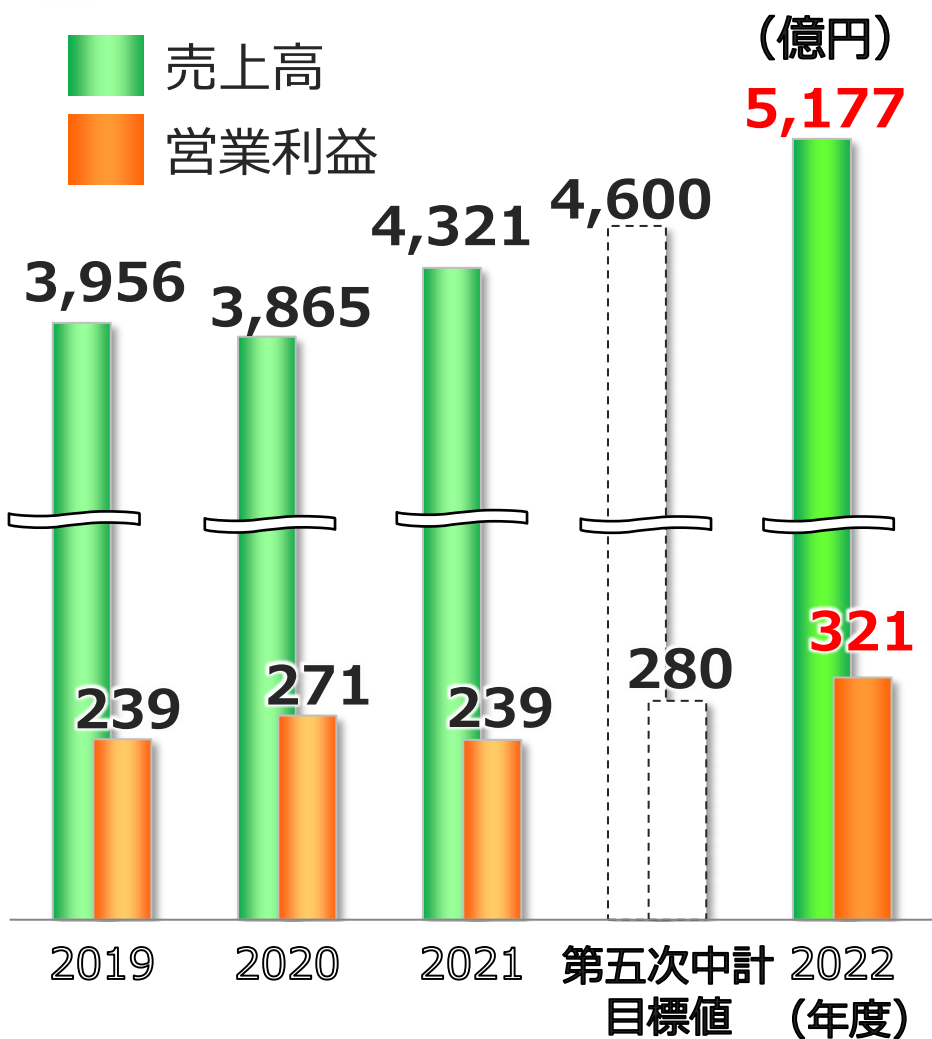
過去最高

第五次中期経営計画

第五次中期経営計画総括

第五次中期経営計画総括

● 第五次中計実績と目標値との比較



	2022年度(2022.4~2023.3)		達成率 /差異
	中計目標(当初)	実績	
売上高	4,600 億円	5,177 億円	112.5 %
営業利益	280 億円	321 億円	114.6 %
ROE	8.0 %	6.5 %	△1.5 P
総還元性向	30.0 %	27.9 %	△2.1 P

※2020年度は新型コロナ禍のため単年度計画

第19期 定時株主総会

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

Vision2035(長期ビジョン)

Vision2035(長期ビジョン)について

Vision2035(長期ビジョン)

2035年のGSユアサのありたい姿

GS YUASAは、4つの『Re』をキーワードにエネルギー技術の革新をすすめ、モビリティと社会インフラの成長による社会課題解決に貢献し、持続可能な社会と人びとの快適な生活環境を実現します。

Reborn 100年事業を実現した創業者精神を呼び起こす

Vision 2035 **Renewable** カーボンニュートラル実現へ貢献

Reliable 技術革新にこだわり、信頼できるエネルギーを届け続ける

Respect SDGsへの取り組みを尊重し、社会に貢献

Vision2035(長期ビジョン)

Vision 2035 の達成に向けて～事業の「革新と成長」～

市場環境の変化にあわせて
事業構造を変革

新たな取り組み

2050年の姿

GSユアサの技術を活用して社会に貢献

2035年の姿

現在の事業の姿

産業電池電源

車載用リチウム
イオン電池

自動車電池 (鉛)

特殊電池

常用分野 (再エネ)

高容量・高出力なリチウムイオン電池
(Hondaとの合併会社を活用)

BEV電池 (次世代電池含む)

社会インフラ

モビリティ

持続可能な
社会インフラ実現
に貢献して
高収益を確保

革新的な蓄電池技術を
広く社会に届けて
高成長を実現

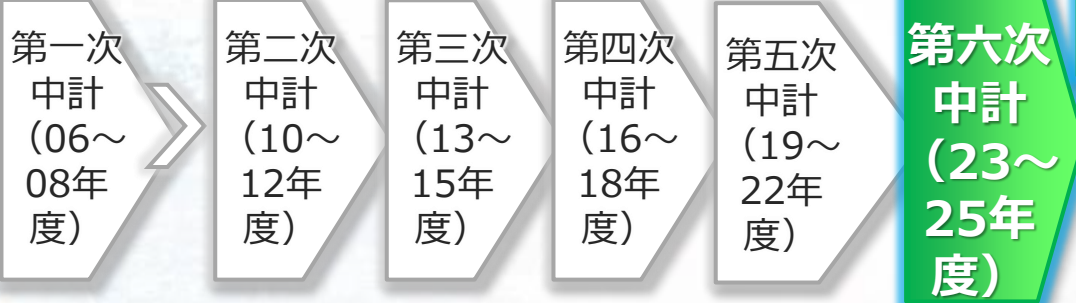
地域戦略の最適化により
成長資金を確保

2035

2050(年度)

Vision2035(長期ビジョン)

経営統合



GSユアサのありたい姿へ

売上高
8,000億円

さらに
その先へ

売上高
2,343億円
営業利益
9億円

売上高
5,200億円
営業利益
290億円

売上高
6,100億円
営業利益
410億円

2004 (年度) 2010 2022 2025目標 2035目標 2050目標

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

(注) 営業利益のスケールは調整しています

第六次中期経営計画

第六次中期経営計画について

第六次中期経営計画について

第六次中期経営計画 方針

Vision 2035 で描くありたい姿実現に向けた変革のための土台作りの期間と位置づけ、事業構造変革に向けた諸施策を実行します。

実行施策

① BEV用電池開発

施策

- ▶ Hondaとの合弁会社を活用した高容量・高出力なリチウムイオン電池開発
- ▶ モビリティ・社会インフラビジネス拡大のためのBEV(バッテリーEV)用電池生産／供給体制整備

② 既存事業の収益力強化

施策

- ▶ 徹底した付加価値創出と収益性改善
- ▶ 国内産業電池電源事業における圧倒的な優位性による利益の最大化
- ▶ 中国事業見直しを含む地域戦略の転換、主要拠点へのリソース集中と利益の最大化

③ DX／新規事業

施策

- ▶ 事業構造転換を可能にするDX推進
- ▶ 社会課題解決に貢献する新規事業創出

第六次中期経営計画について

経営目標

計画期間

2023年4月から2026年3月までの3年間

中期経営目標（2025年度 目標）

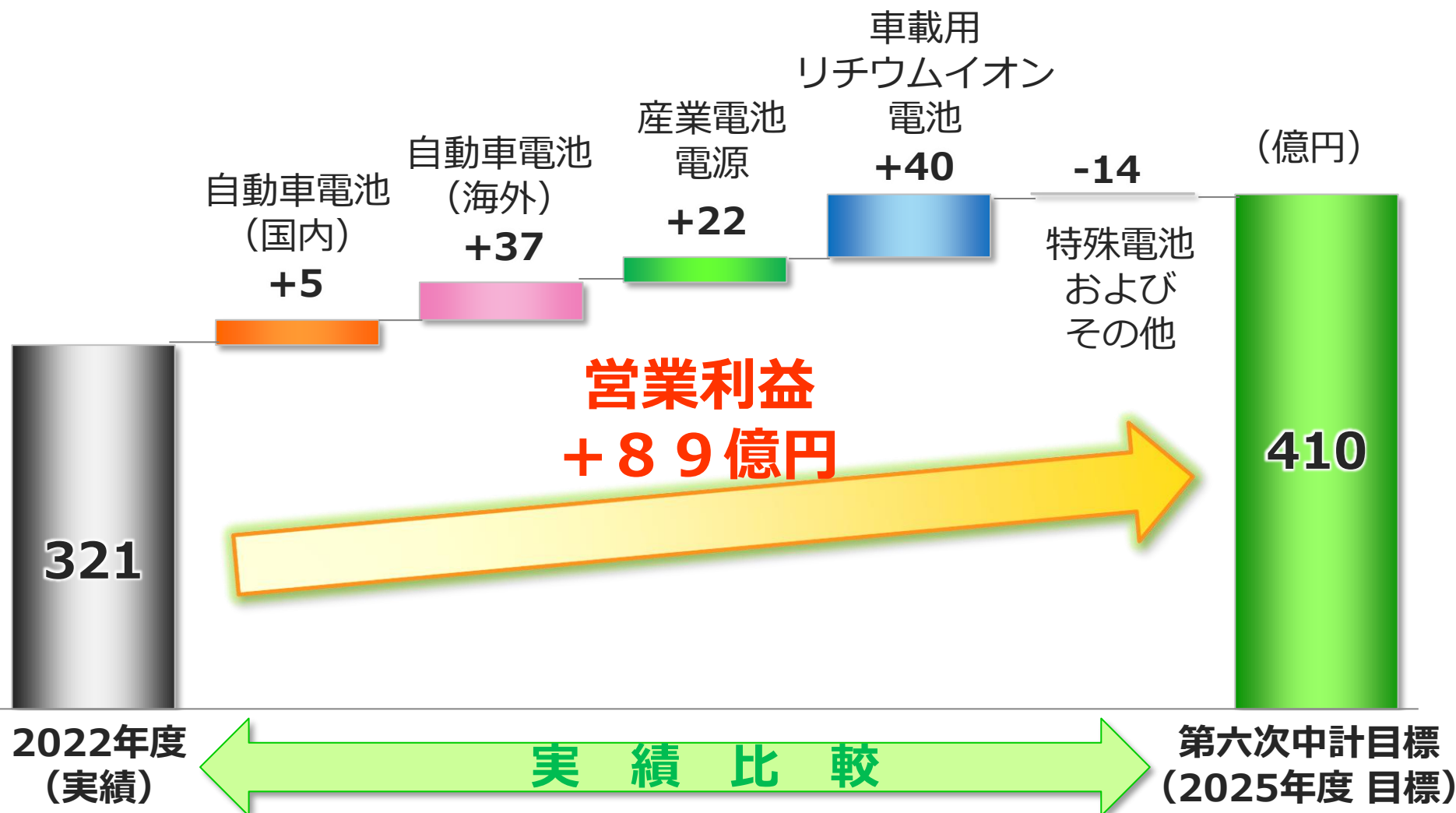
	第五次中計 最終実績 (2022年度実績)	第六次中計 目標 (2025年度目標)	差異
売上高	5,177 億円	6,100 億円	117.8 %
営業利益	321 億円	410 億円	127.8 %
ROE	6.5 %	8.0 %	+1.5 P
総還元性向	27.9 %	30.0 %	+2.1 P

(注1) 上記指標はのれん等償却前利益（営業利益・当期純利益）に対するものです。

(注2) ROICは、のれん等償却前営業利益÷投下資本（固定資産（のれん等除く）+運転資本）で算出。投下資本は期首と期末の平均値。

第六次中期経営計画について

2022年度実績と第六次中計目標との増減(営業利益)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

第六次中期経営計画について

セグメント別業績・戦略（自動車電池）



東南アジア

□タイ拠点

メコン経済圏への輸出など
日本に次ぐ
付加価値供給拠点への強化

タイ



販売数量 2023年度 450万個/年 ▶ 2025年度 500万個/年

□インドネシア拠点

二輪供給の中核拠点として
準備

- ・新機種の立ち上げ
- ・合理化推進（製造自動化など）

□ベトナム拠点

四輪・二輪事業の維持拡大と
差別化

- ・高効率生産設備の立ち上げ



日本

適正売価による収益率の向上

□新車向けの対応

国内鉛建値に応じて販売価格を
調節する契約(鉛価格スライド制)

□補修向けの対応

2023年2月1日出荷分より
自動車用鉛蓄電池

15%以上アップ

新車向け・補修向けともに
鉛価格の売価転嫁に加えて、
インフラ費用や物流費などの
高騰分についても売価に反映



中国

事業の抜本的見直しを推進

第六次中期経営計画について

セグメント別業績・戦略（産業電池電源）

令和5年度 再エネ関連概算予算

- **系統用蓄電池等の導入及び配電網合理化等を通じた再エネ導入加速化事業**
2050年カーボンニュートラル実現に向けて再エネ導入の加速化
令和5年度 国に対する概算要求額 **100億円**
事業概要

- ① 系統用蓄電池等の導入支援
- ② 計画策定・実証支援
- ③ 地域共生型再生可能エネルギー顕彰事業

- **需要家主導による太陽光発電導入促進補助金**
RE100など事業活動に再エネ活用が求められるため需要家主導による導入モデルにより導入拡大を促進
令和5年度 国に対する概算要求額 **165億円**
事業概要

再エネ利用を希望する需要家が、自ら太陽光発電設備を設置し、長期的に利用する契約を締結する場合は太陽光発電設備の導入を支援
⇒令和5年度からは、蓄電池併設型についても支援を拡充

蓄電池の重要性の拡大

2050年カーボンニュートラル実現に向けて、蓄電システム（ESS）の重要性が拡大

需要家側・系統連系などで再エネ関連の補助金が拡大

拡大する機会を生きし、

常用分野

2022年度対比 約**3倍**の容量に拡大
(容量約300MWh目標)

現状

第六次中計期間



競争力強化
顧客満足の上

**2023年度
大容量PCSの
開発推進**

コンテナ体型ESS
(Energy Storage System)

All in one ビジネス
の構築

- 蓄電池 + 遠隔監視サービス + 大容量PCS によるAll in one ビジネス (STARELINKサービス)

第六次中期経営計画について

セグメント別業績・戦略（車載用リチウムイオン電池）

新会社「株式会社 Honda・GS Yuasa EV Battery R&D」設立について

新会社の概要



社名 株式会社 Honda・GS Yuasa EV Battery R&D

所在地 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地

資本金 資本金 20億円、資本準備金 20億円

出資比率 GSユアサ 50%、本田技研工業 50%

協業の内容

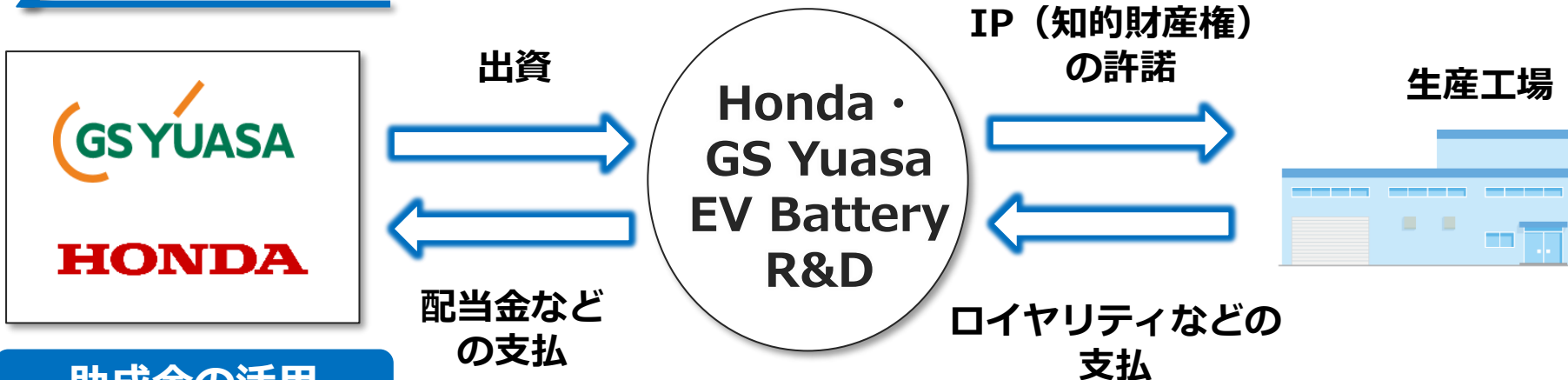
- ▶ EV搭載用を中心とした高容量・高出力なリチウムイオンバッテリーおよび、その製造方法についての研究開発
- ▶ 研究開発に関する特許等の知的財産の構築および管理
- ▶ 研究開発による技術を用いた製品や販路の企画
- ▶ 主要原材料のサプライチェーンを含めた効率的な生産オペレーションの設計等



第六次中期経営計画について

セグメント別業績・戦略（車載用リチウムイオン電池）

BEVの戦略



助成金の活用

事業者名 → GSユアサ、本田技研工業、ブルーエナジー

事業総額 → 約4,341億円

助成金額 → 約1,587億円（最大）

生産規模 → 20GWh（国内）

品目 → 車載用および定置用
リチウムイオン電池



第六次中期経営計画について

セグメント別業績・戦略（特殊電池およびその他）



出典：海上自衛隊 潜水艦隊ホームページ
<https://www.mod.go.jp/msdf/sbf/subordinate/s512.html>



2023年度 業績動向予想（4-3月）

- [潜水艦用リチウムイオン電池]
継続して安定的に受注しているものの、
原材料価格高騰の影響もあり微減
- [航空機用リチウムイオン電池]
原材料価格高騰の影響はあるものの、
需要増によりエアライン（補修）向け
が引き続き堅調に推移

第六次中期経営計画について

2023年度計画（2024年3月期 業績予想）

	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	前年比
売上高	5,177 億円	5,800 億円	+623 億円	+12.0 %
営業利益	321 億円	340 億円	+19 億円	+6.0 %
経常利益	242 億円	270 億円	+28 億円	+11.5 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	139 億円	140 億円	+1 億円	+0.5 %
のれん等償却前 親会社株主に帰属する 当期純利益	144 億円	150 億円	+6 億円	+3.9 %

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

第六次中期経営計画について

サステナビリティへの取り組み（マテリアリティ）

マテリアリティ	主な活動内容・目標
<p>➤ Environment – エネルギー・デバイス・カンパニーとして持続可能な地球環境への貢献</p>	
<p>E</p> <p>➤ 環境配慮製品の開発と普及 ➤ 環境保護の推進</p>	<p>➤ CO₂排出量 15%以上削減（2018年度比） ➤ 水使用量 15%以上削減（2018年度比） ➤ 再生鉛使用率 70%以上 ➤ 環境配慮製品売上比率 45%以上</p>
<p>➤ Social – 人権の尊重と社会への貢献</p>	
<p>S</p> <p>➤ 人格の尊重 ➤ 多様性の尊重 ➤ 人材開発の推進 ➤ 労働環境・労働安全衛生の向上 ➤ 高品質な製品の提供 ➤ CSR調達の推進</p>	<p>➤ 人権教育の推進と人権リスク管理の徹底 ➤ ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ➤ ワークライフバランスと健康経営の推進 ➤ 人材育成プログラムの推進 ➤ 労働安全衛生リスクマネジメントの推進 ➤ 製品安全管理の強化、品質改善や品質コミュニケーション強化の推進 ➤ 責任ある鉱物資源調達への対応とサプライチェーンにおけるCSRリスクの管理</p>
<p>➤ Governance – 公正、透明、迅速なグループ全体のガバナンスの推進</p>	
<p>G</p> <p>➤ CSR・コンプライアンスの徹底 ➤ 知的財産の保護 ➤ 機密情報管理の徹底</p>	<p>➤ コンプライアンス教育の推進と法令情報の周知・徹底 ➤ 特許侵害の回避徹底と模倣品の排除 ➤ セキュリティ対策の推進、情報セキュリティ教育の推進</p>



第19期 定時株主総会

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

議案

第1号議案

剰余金の処分の件

1. 配当財産の種類
金銭
2. 配当財産の割当てに関する事項
当社普通株式1株につき 金35円
3. 剰余金の配当が効力を生じる日
2023年6月30日

第2号議案

取締役7名選任の件

第2号議案



村尾 修

再任

- 現在の当社における地位
取締役社長
最高経営責任者(C E O)
- 在任期間
11年

第2号議案



澁谷 昌弘

再任

- 現在の当社における地位
専務取締役
- 在任期間
2年

第2号議案



福岡 和宏

再任

- 現在の当社における地位
取締役
- 在任期間
3年

第2号議案



松島 弘明

再任

- 現在の当社における地位
取締役
最高財務責任者(CFO)
- 在任期間
1年

第2号議案



大谷 郁夫

再任

社外

独立

- 現在の当社における地位
取締役
- 在任期間
6年

第2号議案



松永 隆善

再任

社外

独立

- 現在の当社における地位
取締役
- 在任期間
5年

第2号議案



野々垣 好子

再任

社外

独立

- 現在の当社における地位
取締役
- 在任期間
3年

第3号議案

監査役1名選任の件

第3号議案

中川 正也

新任



略 歴

2008年7月	GS Battery Vietnam Co., Ltd. 取締役社長
2015年8月	G Y 国際事業部企画本部長
2017年4月	G Y 自動車電池事業部企画本部長
2019年6月	G Y 取締役 G Y 自動車電池事業部副事業部長

第4号議案

取締役賞与支給の件

1. 支給対象
取締役4名（社外取締役除く）
2. 支給総額の上限
1,000万円

報告事項、決議事項について 一括して質問をお受けいたします。

- 挙手をしてください。
- 議長の指名がありましたら、スタンドマイクまで移動してください。
- 「**ご出席票の番号**」「**お名前**」
を最初にお知らせのうえ、ご発言ください。
- お一人様 2 問以内で簡潔にお願いいたします。

より多くの株主様からのご質問をお受けできますよう、
ご協力をお願いいたします。

第1号議案

剰余金の処分の件

第2号議案

取締役7名選任の件

第3号議案

監査役1名選任の件

第4号議案

取締役賞与支給の件

**本日の総会は
以上を持ちまして
閉会いたします。
ありがとうございました。**